

生成AI新ルール案：期待と懸念の対立

内閣府の生成AIルール案（透明性確保等）は、産業界のイノベーション阻害懸念と、クリエイターの権利保護期待の間で大きな議論を呼んでいる。

産業界・AI開発者の懸念



イノベーションを阻害する過大な負担
スタートアップや個人開発者には、情報開示や問い合わせ対応の義務は現実的でない。

日本企業の競争力低下リスク

学習データの詳細開示は、企業の競争力の源泉であるノウハウの流出に繋がる恐れ。



「産業の空洞化」への危機感

海外企業は日本市場から撤退し、国内の新興勢力が淘汰される可能性が指摘されている。

クリエイター・権利者側の期待



無断学習に歯止めをかける第一歩
これまで野放しだった、著作物の無断学習利用にルールが導入されることを評価。



透明性確保による安心感

自分の作品がAIに利用されたか問い合わせできる仕組みは、大きな安心材料となる。



「権利侵害の抑止力」への期待

訴訟前に証拠を得やすくなり、クリエイターが泣き寝入りせずに済む可能性が高まる。